

## 「本山寺山森林づくりの会」活動報告(7/2)

文：武田、写真：倉谷、越野、山國、

日時：2020(令和2)年7月 2日(木) 9:30～15:30

気象：晴

活動エリア：44林班い、東海自然歩道

活動内容：林床整備・風倒木処理、歩道整備

参加者：猪川 誠、石原順子、泉家恵子、内海宏一、斧田一陽、倉谷邦雄、越野雅美、薦田佳一、武田壽夫、  
中村賢三、宮本 廣、山田真也、山 國 会員 13名

### <(お洗濯は)梅雨の晴れ間を有効に……>

見出しは NHK の天気予報でお馴染みのフレーズ。天気は概ね「晴」、気温も上がり、山仕事向けの一日。主な活動は天狗杉付近から北方の国有林北端手前までの約 50m の間、ポンポン山への自然歩道脇の西側尾根(=本山寺山山頂尾根の東端、保安林)の林床整備。台風等の風倒木が沢山残る一帯で、ハイカーの目にも触れ易い所、また歩道整備を予定している南西方向への入り口でもある。二班が担当し、他の一班は自然歩道の急な木段部の補修や溝の掘り返しに従事。

特記事項① 四・五月休業の四日分+予備日二日=六日を活動日に追加=7/9(木)、7/26(日)、8/23(日)、9/13(日)、10/8(木)、10/25(日)、予備は雨天の順延に備えるもの。

特記事項② 本山寺さんのご好意：可笑院での総会開催に加え、移動運搬用の車について勧請掛け手前の空き地での駐車をお許し頂いた。なお、汚れた道具類を手水の溢水で洗わせて頂いていて、あれやこれや百済住職のご厚意には感謝、感謝。

附けたり：「たわし」の紹介=鍬や作業靴の土落としには棕櫚の束子が一番(写真参照)。たまたまこの日は「たわしの日」。1915年(大正4)、「亀の子束子西尾商店」初代社長西尾正左衛門が「亀の子束子」の特許権を取得した日、以来、7/2が「束子の日」とのこと。

さて、前門の熱中症、後門のコロナ、適宜のマスク外しと密を避ける心得で、今日もスタート。

### <今日の成果>

林床整備は天狗杉付近からと国有林北端手前からの両方から進める。風倒木は幹は勿論、繁った枝の始末に手古づる、枯れた常緑樹は枝掛かりと、これも厄介この上なし。それでもようやく歩道が見下ろせるようになり、また、尾根の奥が見通せるように仕上げられた。

面積的には  $50\text{m} \times 20\text{m} = 0.1\text{ha}$  の成果。

歩道整備は急坂部の、土が抜けている木段の補修と水切り溝の掘り返し。木段4段を修復。

### <その他、一寸良い話>

- ・参拝路では鹿の親子が目前を駆け抜ける(軽々とした走りっぷり)
- ・参拝者駐車場では通行止めが続く川久保林道の整備だろう、同じような年恰好(?)の人達が支度中
- ・ハイカーの姿ボチ〃〃、一緒に如何?と声をかけた処、あめ玉の支援に止まったとのこと。

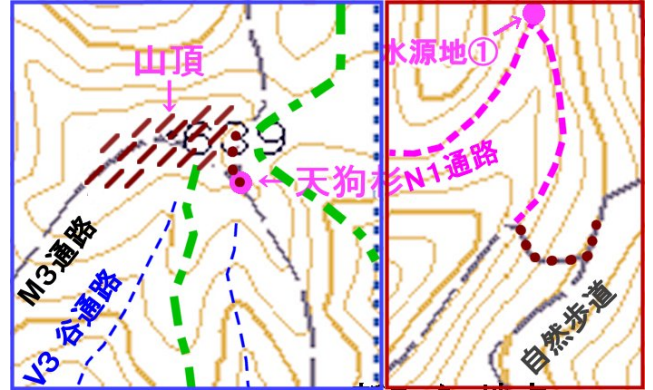
←歩道組の報告。

<写真編①>

【風倒木の下、「禁」「密」な弁当T I M E】



【活動地要図(↓山頂尾根 ↓自然歩道)】



【風倒木の処理 準備中-天狗杉付近】



【歯が噛んだチェーンソーを救出する】



【風倒木は枝も道を遮る】



【処理が進んで漸く前方が見通せるように】



<写真編②>

【崩れた木段の復旧—どう進めるか】



【修復後の木段—付近の倒木を使って積み直す】



【水切り溝の掘り返し】



【手にした束子で鍬の土を落す】



【山の回復力—根本の僅かな土壌にも実生が育つ】



【発見「可愛い花」—ザビ—ナツツのデビュー曲】

